

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市児童館（非公募66館）
2	指定管理者	公益財団法人ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成28年4月1日から平成30年3月31日まで（西多賀児童館） 平成28年4月1日から平成31年3月31日まで（上記以外の65館）
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 1,439,375人（前年度比 104.9%） 平成28年度 1,372,278人 平成27年度 1,368,916人 平成26年度 1,284,833人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">（ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 1,838,795千円（1,717,268千円）※非公募66館分、前年度は非公募68館分 ・ その他市が負担した費用 千円（ 千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 千円（ 千円） ・ その他収入 千円（ 千円）
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	児童館の設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、管理運営団体が作成した「オリエンテーションブック」を用いて職員への共通理解を図るとともに、館内掲示、パンフレット、ホームページ等で利用者にも周知している。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設の目的の達成に努めている。	S
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、マニュアル等の整備、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	S
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
IV	サービスの質の向上	名札の着用、館内掲示による職員紹介、児童館だよりの発行やホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境作りに取り組んでいる。また、各種研修への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	S
V	施設固有の基準	全館において地域特性や地域ニーズを把握するため「地域カルテ」を作成し各事業の計画・実施に生かしている。また、児童館を拠点とする地域住民や子育て支援クラブ等の活動を支援し、地域とともに子育て家庭支援事業や児童健全育成事業に取り組んでいる。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>当財団の児童館事業について重点的な取組みの方針・方策を示した「児童館事業ステップアッププラン2015」の最終年度であることから、プラン全体の達成度の確認や評価・総括を行うとともに、次期プランの策定にも取り組みました。</p> <p>各館の事業展開においては、地域カルテ等を活用しながら、地域マネジメントの視点からアセスメント・モニタリングを行い、その結果を踏まえて、個別事業ごとにプランニングを行いました。財団本部においては、ピアレビュー方式による全館の事業ヒアリングを行い、当該プランとの整合性や達成度を確認し、各館における地域特性を活かしつつ、事業レベルの確保・事業数の確保に努めました。</p> <p>各館の主な事業例としては、プログラミング体験や和文文化体験など、遊びを通して学ぶ体験型の事業が増えています。また、“子どもボランティア”や“子どもあそび委員会”等、子どもたち自身で考え遊び、集団活動の中で学んでいくという機会も増えています。児童クラブの全学年受入れを見据えた取組みであるとともに、0歳から18歳未満の子どもたちに開かれた児童福祉施設という児童館の本来的な機能に基づいた“子どもの視点”に立ったプランニングの成果であると評価しています。</p> <p>その他、近隣複数館による連携事業、集会所や福祉施設に出向いての出前児童館も展開し、それぞれの地区の生活圏域における子育て支援事業や世代間交流事業を行いました。</p> <p>児童クラブ事業については、増加するサテライト室を円滑に運営するため、運営ノウハウの共有や課題の整理を行いました。また、児童一人ひとりの状況に合わせて適切な対応が取れるよう、児童館職員で構成する業務検討会において、実用的に活用できる「要支援児対応ハンドブック」を作成し全館に配布しました。</p> <p>児童館職員の資質向上・支援力強化の取組みについては、仙台市主催の児童館職員等研修を受託し全8回実施しました。内部研修としては、男性職員研修や放課後等デイサービス事業所への体験研修を新たに設け、年間を通じて29種の階層別研修やテーマ別研修等を実施した他、19種の外部研修にも積極的に参加しました。</p> <p>5回目を迎えた「児童館フェスタ」は、子育て世帯が増えている栗生・錦ヶ丘地区に近い広瀬文化センターを会場に、11月19日（日）に開催しました。当日は、地元の伝統芸能や区内児童館の子どもたちのステージ発表の他、チャレンジゲームやサイエンスショー等、児童館職員による手づくりの遊びのコーナーを設け、大学生ボランティアにも協力いただきながら運営し、多くの家族で賑わいました。</p> <p>2回目となった「児童館フォーラム」は、“遊びのプロフェッショナル・児童館の専門性を考える”をテーマに、2月25日（日）に戦災復興記念館で開催しました。特別講演の他、4つの分科会やミニ講座を設け、市内のみならず県内外からも参加があり、のべ参加者数約530名による“今日的課題について共に学び考える場”となりました。</p> <p>このように、館ごとの地域特性を踏まえた事業の展開、運営団体としての児童館事業の水準アップと児童館職員資質向上の取組みは、文字通り、“ステップアップ”した成果実績があったと評価しています。今後はそれを土台に、地域の子どもの権利を擁護し、地域社会への参加と自立を促すための今後の方向性を示すものとして新たに策定した「児童館子ども育成プラン2018」に基づき、児童館事業に取り組んでまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の管理運営については、指定管理者が策定した全館共通の各種マニュアル等に基づき適切に行われ、いずれの館も必要な水準を満たしているほか、各館の実情に応じた独自の取り組みが見られた。施設や設備の維持管理も日々確実に実行されており、利用者が安全安心かつ快適に過ごせる環境を整えている点が評価できる。</p> <p>また、職種や経験年数に応じた各種研修への参加等を通じて職員の資質向上を図っているほか、利用者アンケートや運営委員会等で得た意見を踏まえて運営の改善を図るなど、サービスの向上に努めている点も評価できる。</p> <p>児童館で実施する各事業については、指定管理者が策定した「児童館事業ステップアッププラン2015」に基づき、いずれの館も適切に実施されている。</p> <p>児童健全育成については、地域の子どもたちに遊びの場を提供するほか、様々な体験を通して心身ともに成長できる機会を図っており積極的に健全育成に取り組んでいる。</p> <p>子育て家庭支援については、地域ぐるみで子育て支援クラブ等の育成支援に努め、地域諸団体と連携を推進し、児童館を拠点とする子育て支援ネットワークの構築に取り組んでいる。</p> <p>地域交流推進については、地域の多世代が交流できる児童館の特性を活かし、多様なプログラムを提供しているほか、親子での交流や親子が地域とつながる機会となる土曜日事業の充実にも取り組んでいる。</p> <p>児童クラブについては、子どもの特性に合った適切な支援等を行うため「要支援児対応ハンドブック」を作成し、団体内で共有を図っている。また、子どもの主体性を尊重した育成支援を基本に、子どもの自主性、社会性及び創造性を育む様々な遊び・体験の機会を十分に提供し、子どもが地域に関わりながら育つ環境作りに努めており評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局部子供育成部児童クラブ事業推進室